

1. 12月の外資進出情報など

- 12/21、みずほコーポレート銀行は、ミャンマー政府から、ティラワ工業団地についての開発事業者や事業スキームなどに関する調査を受託したと発表。
- 12/21、経済産業省は、ヤンゴン近郊のティラワ経済特区に工業団地などを整備するプロジェクトで、日本とミャンマーの共同事業者を2013年3月までに設立することで両国が合意したと発表。特区の開発面積は2400ヘクタールで、誘致した企業が2015年には事業を開始できるように整備するという。三菱商事、丸紅、住友商事が中核として参加し、ミャンマー企業と合弁会社を設立する。
- 12/21、ヤマハ発動機の柳弘之社長は、ミャンマーの二輪事業に関し、2013年中にも、販売会社を設立したいとの意向を明らかにした。ヤマハは現在、現地代理店を通じて、年間数千台規模の販売実績を持っている。販社設立の許可が降り次第、現地代理店を活用した販売網を整備したい考え。
- 丸紅の朝田照男社長は年末のインタビューで、ヤンゴンとマンダレーを結ぶ約600キロの鉄道を高速化する事業を手がけたいと発言。またヤンゴンの環状線事業、ティラワ工業団地事業、ヤンゴン近郊のガス発電所の能力強化などに積極的に取り組むという。
- 12/24、外務省幹部が、2013年の1月19、20日に、ネピドーでミャンマーの経済開発支援を話し合う国際会議が開かれると発言。
- 2013年1月に、ミャンマー投資フォーラム:3件開催予定。1/21~24に鉱業サミット、1/28~29に電力サミットと投資サミットが開催され、政府閣僚などと直接面談ができるという。
- 12/25、NEC が2013年1月以降、ヤンゴンとネピドーの2都市に支店を開設すると発表。開発が進む工業団地のインフラ構築や海底ケーブルの敷設、企業のITシステム構築重要などを開拓するという。
- 三井住友海上火災の女子柔道部がミャンマーの女子柔道ナショナルチームとの合同練習が、2013年1月7日から1か月間、日本で行われる予定。12/26、ミャンマー選手4人とコーチ1人の壮行会が、ヤンゴンの日本大使館公邸で行われた。
- 12/27、東芝の佐々木則夫社長は、インタビューでミャンマーへの進出を表明。テレビや洗濯機など家電製品の販売から始め、将来的には発電機など社会インフラ設備事業にも拡大するという。
- 12/27、ミャンマー新国際空港建設に、大手ゼネコンの大成建設やエンジニアリング大手の日揮が参加の意向を表明していることがわかった。新空港はヤンゴンから約70キロ北方のバゴー市に建設予定で、2013年に入札実施、17年に開港する予定。
- 12/27、三菱東京UFJ銀行は、ミャンマー第2位の大手商業銀行のコーポラティブ銀行と業務提携を行う覚書を交わした。ミャンマー政府は、外資に銀行業務を認めていないため、進出企業の支援には現地の銀行との提携が不可欠。三菱東京UFJは顧客をコーポラティブ銀に紹介し、現地で口座開設や送金サービスが利用できるようにする。邦銀とミャンマー銀との提携は、最大手の間ポー座銀行と組んだ三井住友銀行に続いて2例目。
- JFE エンジニアリングはミャンマー企業と組み、同国の橋梁事業に参入すると表明。まずヤンゴン市内で交通渋滞を緩和するための道路高架橋を建設する。
- 日系大手物流事業:郵船ロジスティックスの川島利夫総合開発営業部長は、インタビューに応じて、現在、現地法人の設立計画を進めていると発言。
- 12/26、ローソンは、年内にも計画していたミャンマー出店を、2014年以降に先送りを決定。ミャンマーでのインフラが未整備であることや、コンビニを活用する中間層の広がりが限定的と判断。
- 12/20、タイでIT製品小売業を運営するコムセブン・インターナショナルは、2013年、ミャンマーとラオスの両国で、IT製品の売事業を展開すると発表。
- 12/21、タイの変圧器メーカー:ティラタイは、ミャンマーでの配電変圧器や電源トランスの生産受注(総額3億バーツ)の入札に参加したと発表。社長は落札の可能性が高いと話しているという。
- 12/24、タイ化学製品販売会社:ユニバーサル・アブソorbent・アンド・ケミカル社の最高経営責任者は、ミャンマーにバイオ燃料プラントを建設すると発表。タイ南部ランソン県に近いソン島に8億バーツを投資、現地の投資家と合弁、2014年の稼働を目指すという。
- 12/25、ベトナムの不動産大手ホアンアインザーライ(HAGL)が、ヤンゴンでホアンアイン・ミャンマー・センターを建設すると発表。同センターは、400室を備える5つ星ホテル、商業施設、オフィスビル、賃貸向けの集合住宅などからなる。HAGLはすでにミャンマー当局との間に、建設、運営、譲渡契約と土地リース契約を締結済み。

## 2. カチン族との内戦、深刻化。

ミャンマー北部のカチン州で、政府軍と少数民族武装勢力カチン独立軍(KIA)間で、内戦が拡大している。政府軍はミッチーナ・バンモー間のルートに布陣している KIA 軍に、12/25を目途に撤退を求めたが、カチン独立機構(KIO)が反対。また KIO は政府軍が KIA 軍地域に侵入し、政府空軍が12/23日午後空から KIA の発電所を爆撃したことにより、難民400人が発生したと非難している。この空爆でミッチーナ市では電力の供給ができず、停電状態が続いている。政府軍は、12/25までに撤退を迫っており、従わない場合は戦うと発言。KIA 側は一方的な命令には反対と声明。

2013年1/4、テイン・セイン大統領は国連の潘基文事務総長が、「ミャンマー政府に対し、市民の生命を危険にさらす行動を中止するよう求めた」ことに反論し、「攻撃対象は軍事施設で、一般市民が住む場所ではない。KIA が地雷などを敷設したため、市民生活に支障が出ているのである」と述べた。

## 3. 12/25朝、国内線旅客機不時着。道路上で大破、炎上。

12/25朝、ミャンマー中部にあるシャン州の州都タウンジー近郊で、エアバガンの国内線旅客機が高速道路に緊急着陸した。機体は大破して炎上、乗客2人が死亡し、乗客乗員11人が負傷した。現場周辺は当時霧が立ちこめており、視界不良であり、空港から約3キロ離れた地点に不時着した。

## 4. ヤンゴン周辺の土地高騰

外国投資法を2013年1月2日までに決定すると、投資委員会の責任者が、12/27に開かれたミャンマー・タイ貿易 & 投資会議で発表。しかしその法律には、土地価格をコントロールする項目は入っておらず、現在、ヤンゴン周辺の土地は高騰を続けており、外国からの投資に大きな影響を及ぼしている。ここ2年以内の土地価格値上り状況は下記。

	2010年	2012年	(1エーカー当たりのミャンマーチャット価格)
1. ダゴン	5千万	1億8千万	
2. シュエピター	7千万	2億以上	
3. フラインタヤー	1億5千万~1億7千万	4億以上	
4. シュエリンバン	5千万~7千万	1億8千万~2億	
5. ティラワ	4千万	2億~3億	

## 5. 銀行の貸出金利、切り下げ

工業省が、国内中小企業のために、銀行の貸出金利を現在の13%から8.5%に切り下げると発表。隣国の銀行ローンは1%~6%しかないのに、ミャンマーは13%になっているから、第1段階として8.5%に切り下げたという。

## 6. 2013年乾季の電力供給予測

2013年乾季には、ヤンゴンの電気需要は15%以上増加する見通し。ヤンゴン管区では2012年の電気需要:750メガワットさえも十分供給できておらず、全ての工業団地で停電が生じた。現在色々な発電所から電力を集中して送り込むように段取りしているが、2013年の電気需要の増加に追い付くには不足する模様。そのため引き続き停電状態が起きることが予測されるが、基本的に工業ゾーンを停電して、住宅は停電させない予定。

一方、現在、電気省は電気代の計算方法の変更を検討している。隣国のタイやラオス等では、使用率によって電気代を計算しているが、ミャンマーでは 1Unitいくらで計算している。当面の電気代に関しては、下記のように訂正する予定であるという。

住宅用	: 1~200Units	35チャット	201以上	50	
工業用	: 1~1万Units	75	10001~15000	100	15000~以上 150

## 7. タイ・ミャンマー間の鉄道を再調査、再整備

第2次世界大戦時、アジア全体をコントロールするために造られた鉄道:タイ・ミャンマー間の175マイルが再使用可能かどうか、12/14から調査が開始された。使用不可の場合は、新規に鉄道を作る予算を提出し、国会の許可で進める。鉄道はミャンマー側が110キロ、タイ側が135キロ。この鉄道プロジェクトは 韓国の KOICA、ミャンマーの AGD 銀行、日本の会社等が共同で作業して行く。なおこの鉄道には、平行して4車線の高速道路も開発していく予定。

## 8. EU の無税措置(GSP チャンス)、2013年初旬に取得可能か

ミャンマー縫製協会の情報によると、2013年初旬には EU の無税措置(GSP)をミャンマーも取得できそうだという。協

会関係者は、現在、日本、韓国、タイなどから縫製業に投資する企業が多数ミャンマーにきているので、これに加えてEUのGSPが取得できれば、これからのミャンマーの縫製業界は大きな飛躍ができると予測している。

### 9. 日本の援助で縫製技術者の養成

現在、ミャンマーの縫製業界では、ワーカー、ことにベテラン技術者が少ないことが問題になっている。そこで技術者養成のため、日本のHIDA協会の援助で、1月から無料で、ヤンゴンにスキルアップクラス等が開かれる予定。今回は特に縫製業に関するマネジメントと企画面を、優先的に Asai 先生が教える。1回10日間のこのコースは、1月21日、2月11日の2回開かれる予定。

### 10. 日本の投資はNATO

これまでの日本の投資は、約2億4600万米ドルでまだ少ない。ミャンマーを訪問する企業や団体は非常に多いが、実際に投資に踏み切る企業はほんのわずかであり、そのため「NATO: ノーアクション・トークオンリー」と陰口を叩かれている。最近、続けて投資をしてきているのはアメリカであり、スピードも速い。しかし、ミャンマーに調査に来た日本の全ての企業や団体が、実際に投資をすれば、日本の投資金額もかなり増えて来る。下記は2011年からの累計。

2011年12月31日まで	22社の企業進出	投資金額	2億1190万2千米ドル
2012年03月	2社増えて 24社	投資金額	2億1622万米ドル
2012年06月	1社増えて 25社	投資金額	2億1694万米ドル
2012年11月	4社増えて 29社	投資金額	2億4683万7千米ドル

### 10. VISA カード、ミャンマー国内の民営銀行 ATM で使用可に

国内銀行 CB 銀行、KBZ 銀行で VISA カードが、12月21日から使用可能になった。MOB 銀行でも1月に使えるようになる。現在、ヤンゴン、マンダレー及びバゴー 3つの都市で、ATM が設置してあり、使用可能。CB 銀行の ATM45機では1回につき100万チャットまで引き出せる。手数料は5千チャット。KBZ 銀行は手数料未設定。VISA カード同様、マスターカードも、CB,KBZ 銀行の ATM で引き出せる。

### 11. 両替情報

1USドル	=	855MMK	: 1FEC	855MMK
1ユーロ	=	1121MMK		
1バーツ	=	27.7MMK		
1元	=	134MMK		
1シンガポールドル	=	695MMK		

以上